和歌山

紀南

ご祝宴・ご法宴・仕出し
国際観光旅館 紀州備長炭風呂の 太公望
☎073(444)1151 http://www.taikoubou.co.jp/

天気

	きょう 6時	9	12	15	18	21	24	あす
和歌山	18 9 ◎	☀	☀	☀	☀	☀	☀	20 13 40
田辺	18 11 ◎	☀	☀	☀	☀	☀	☀	20 14 40
潮岬	17 12 ◎	☀	☀	☀	☀	☀	☀	20 15 40

週間天気

	29日(火)	30日(水)	1日(木)	2日(金)	3日(土)
和歌山	19 12 60	18 11 40	16 9 40	16 9 40	17 10 50
潮岬	19 12 60	18 11 40	16 9 40	16 9 40	17 10 50

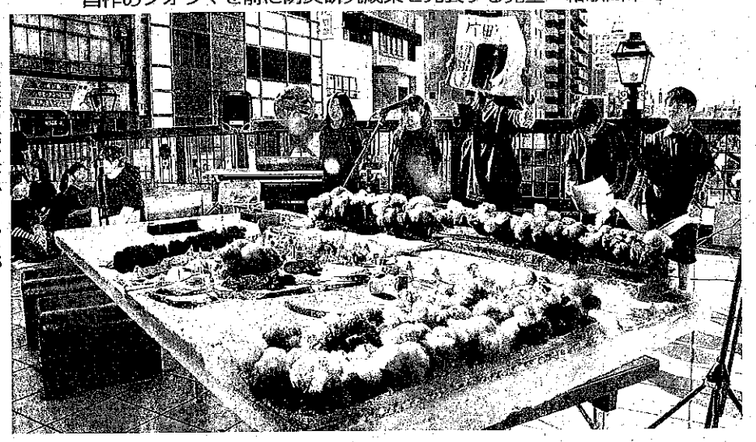
のち　一時・時々　5ミリ以上　5ミリ未満
数字(上)最高気温 (下)最低気温
丸囲みは降水確率　白ヌキは50%以上
↖は正午の風向き　矢印なしは無風
くよみは下に掲載

防災意識高めて

研究成果発表

ジオラマや安心マップ

和大付小 児童が製作


自作のジオラマを前に防災研究成果を発表する児童＝和歌山市で

和歌山

地震や津波など災害に対する防災意識を高めてもらおうと、和歌山大付属小学校の4年生30人が26日、「4Aオレンジカフェ」と名付け、防災検定やクイズ、寸劇などで研究成果を和歌山市で発表した。

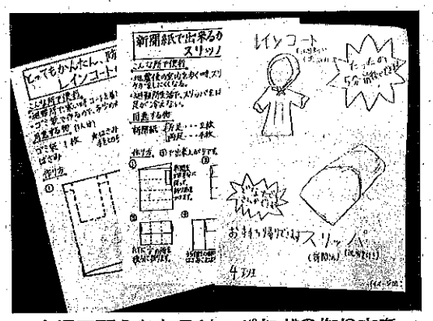
同校によると、3月11日の東日本大震災をきっかけに、児童が県内の地震や津波などへの防災対策に強く関心を持った。カフェを企画した4年生は今年4月から、社会科・総合学習として来年までの予定で研究に取り組んでいる。

この日の会場は、同市本町1の京橋プロムナードなど。児童は6人ずつ5班に分かれ、東日本大震災をはじめ、県や市の防災対策、安心マップ作り、現在の広川町で大津波から住民を救った醤油醸造家・浜口梧陵の研究について説明した。

同市の防災対策を研究した班は「市に取材したが、食料などの備蓄倉庫が市内に3カ所しかないと知り、少ないのでがく然とした。もっと増やすように申し入れをしたい」などと話した。

また、市内に津波が発生したことを想定し、児童が製作したジオラマを展示。防災グッズとして、新聞紙で簡単にできるスリッパや、ごみ袋でレインコートを作る実演などもあり、訪れた市民の関心を集めていた。カフェ実行委員長の三宅優陽君は「東日本大震災で大きな被害があり、和歌山の防災について真剣に考えるようになった。研究成果を聞いて、大人の人たちにもっと防災意識を高めてほしい」と話していた。

また、4年Aの担任、梶本久子教諭は「研究成果をまとめ、市長に防災への提言をしたい」という。【山中尚登】



会場で配られたスリッパなどの作り方を説明した児童手作りのチラシ

経験に共感 社会へ一歩

和大・ひきこもり自助グループ「アミーゴの会」

仙台のNPOが視察

ひきこもりの回復支援で知られる和歌山大（和歌山市栄谷）。仙台市でひきこもりの若者の就学・就労支援に取り組むNPO法人のメンバーらが、視察に訪れた。目的は和大の自助グループ「アミーゴの会」との意見交換だ。どんな支援が、社会とつながりを持つ一歩を引き出すのか。同会メンバーが約3時間、経験を踏まえて率直に語った。【久木田照子】

視察したのは、仙台市のNPO法人「スイッチ」や専門学校などのスタッフ、千葉や東京で同様の支援をしている計9人。スイッチは今年6月、就学・就労支援の事業所を開設。東日本大震災の影響で、予定より3カ月遅れでスタートした。支援の仕組みを整える中で、和大の取り組みを参考にしたいと視察を申し込んだ。

同会が県外の団体などと意見交換をするのは初めて。メンバー10人以上が参加し、緊張した表情で臨んだ。和大の宮西照夫教授（精神医学）や、ひきこもり経験がある有給のサポーター2人も同席した。

最初の質問は、サポーターの立場について。宮西教授が「自らも苦労した経験が、ひきこもる若者の共感を呼ぶ」と説明すると、サポーターの一人が「大学を卒業するのに4年でなく、5～6年かかるのは普通」と続けて、ざっくばらんなやりとりが始まった。

「元気になったきっかけは？」との質問に答えたのは、大学に4年間、行けなかった前田智哉さん(23)。手が汚れているのではないかと思って洗い続けたり、他人の目が気になった。会を訪ねるのもいやだったが、知人の勧めで勇気を出した。経験者が一緒にいてくれる会は「居場所がなかった僕の精神的な支え。砂漠のオアシス」という。

その後もメンバーは「大学をやめるなら自分で生活しろ、と親に言われた」「頑張ろうとか言われると思考が止まる」などと経験を紹介。メンバーの家に集まり食事や麻雀をするようになったり、会の仲間にアルバイトを引き継いだことなどの生活の変化を語った。

台風12号で被災した日高川町を訪れ、住宅の片付けなどのボランティアをしたことにも触れ、「東日本大震災で被災した仙台にも、ボランティアや観光に行きたい」と締めくくった。参加した西川雅章さん(24)は「視察で訪れた人が、真剣に知ろうとして下さりうれしかった。自分は和大に助けてもらうために来ているのに、必要としてもらえた」と話していた。

アミーゴの会 ひきこもりを経験した学生が同級生や後輩の話し相手になるなど、若者同士で外に踏み出す一歩を模索する取り組みで、全国的に注目される。メンバーは約40人。自らもひきこもりから脱しようとしつつ、現在ひきこもり中の人を助ける役割を担う。サポーターもひきこもり経験者で、会の中では「お兄さん」的な存在だ。学内の精神科医らも協力。こうした態勢が、ひきこもりなどの学生が訪れやすい環境を作っている。

学生が作ったカレーもふるまわれた意見交換。手前が仙台市などから視察に訪れた人たち＝和歌山大で

和歌る？紀になる！

「低たんぱくの主食効果的」

腎臓病教室

食事療法の重要性訴え

和歌山

腎臓病の治療法について学ぶ「腎臓病教室」（紀泉KDクリニック主催）が26日、和歌山市北出島1の県勤労福祉会館で行われた。クリニックの大谷院長が講演し、60人が聞き入った。

大谷院長は、腎臓病の治療には食事療法が重要と説明し、「食べるだけでなくなり、エネルギー不足になる。肉の多い肉食を減らし、ご飯などの主食を

腎臓病の治療法について話す大谷院長＝和歌山市の県勤労

郷土カ土
【幕下】
☎0898(88)

公開交通取り締まり 27日
【和歌山市】加納町周辺　携帯電話等（10～12時）▽美園町周辺　携帯電話等（11～

あすのこよみ
11月28日（月）
旧暦11月4日

パソコントラブル解決します！